ご利用にあたっての注意

●調査番号　　SSJDA0400\_career

●調査名　　　全国調査「戦後日本の家族の歩み」

●寄託者　　　日本家族社会学会　全国家族調査委員会

○結婚歴、親との同居歴、就業歴、介護歴などに関わる合成変数のデータセットについて（寄託者提供）

第一次報告書『全国調査「戦後日本の家族の歩み」』（2003年3月）を執筆する過程で作成した変数であるため、第２次クリーニング結果を反映させた最新版（v2）から作成したものではありませんが、最新版の主要変数との整合性についてはチェックして、異同があった場合は修正してあります。

また、変数の作成者によって欠損値の処理方法に違いがあります。非該当の扱いは統一してありますが、履歴情報（時点情報）の一部が欠落しているケースの処理方法――こうしたケースは原則的に無回答として扱うか（⇒就業歴）、あるいは部分的に有効な情報は生かすか（⇒同居歴）、あるいは何らかの仮定をおいて処理するか（⇒介護歴）――は統一していませんので、多変量解析など複雑な分析を行う際には、利用者の課題に応じた処理方法にもとづき再作成した方が良いと考えられます。

なお、各変数についての詳細は次のとおりです。

＜結婚歴＞

fmar\_a　初婚年齢：q02a（再婚経験なし）＋q18\_1a（再婚経験あり）

fmar\_s　初婚西暦年：q02s（再婚経験なし）＋q18\_1s（再婚経験あり）

fmar\_c05　初婚コーホート（５年階級）

fmar\_c10　初婚コーホート（10年階級）

div\_ex　離婚経験の有無：離別と死別の経験があるケースについては、

離婚先行ならば1、離婚後続ならば0をコード

div\_a　離婚年齢：ただし初婚の離婚のみ。再婚の離婚は非該当996をコード。

div\_s　離婚西暦年：ただし初婚の離婚のみ。再婚の離婚は非該当9996をコード。

＜結婚後の親との同居歴＞

　doky\_now　現在の親との同居：同居歴データ（ｑ20、q22）より作成。

現在の世帯情報（q48\_2c02）とは若干のズレがあるが、これは前者が一時的な同居を含まないのに対し、後者はそれを含むため。

doky\_r　自分の親との同居→別居パターン：「結婚同居」（結婚と同時の同居）には、初婚だけでなく再婚も含まれる。初婚か再婚かはdoky\_rfmで判別。

doky\_rfm　自分の親と初婚と同時に同居したか否か。

knky\_r　自分の親との近居→遠居・同居パターン：「結婚近居」（結婚と同時の近居）には、初婚だけでなく再婚も含まれる。初婚か再婚かはknky\_rfmで判別。

knky\_rfm　自分の親と初婚と同時に近居したか否か。

　doky\_r00～doky\_r30　結婚(初婚)年から結婚後30年まで各年の自分の親との同居状況：

ａ）各回の同居について、「開始年齢≦初婚年齢＋ｔ≦終了年齢，ただし0≦ｔ≦30）」を満たすdoky\_rｔについて、doky\_rｔ=１とコードし、それ以外は0とコードした。ただし、再婚経験者については、少数ではあるが再婚後に自分の親と同居した者がある。この場合はdoky\_rｔ=2とコードした（分析目的によっては、離婚以降、非該当として再コードする必要がある）。

ｂ）開始年and/or終了年が不明の同居については、無回答9をコード。ただし、同居回数が２回以上のケースで、開始年・終了年が判明している回があれば、その該当期間については1ないし2をコードする。

ｃ）調査時点による観察打ち切りはその時点以降、7（非該当）をコード。未婚者は8をコード。上記以外が0。

コード一覧　　　0 別居（死亡を含む）

　　　　　　　　　　1 同居（初婚）

2 同居（再婚）

　　　　　　　　　　7 非該当（調査時点打ち切り）

　　　　　　　　　　8 非該当（未婚）

　　　　　　　　　　9 無回答

doky\_s　配偶者の親との同居→別居パターン：「結婚同居」（結婚と同時の同居）には、初婚だけでなく再婚も含まれる。初婚か再婚かはdoky\_rfmで判別。

doky\_sfm　配偶者の親と初婚と同時に同居したか否か。

knky\_s　配偶者の親との近居→遠居・同居パターン：「結婚近居」（結婚と同時の近居）には、初婚だけでなく再婚も含まれる。初婚か再婚かはknky\_rfmで判別。

knky\_sfm　配偶者の親と初婚と同時に近居したか否か。

　doky\_s00～doky\_s30　結婚した年から結婚後30年まで各年の配偶者の親と同居状況：

ａ）各回の同居について、「開始年齢≦初婚年齢＋ｔ≦終了年齢，ただし0≦ｔ≦30）」を満たすdoky\_sｔについて、doky\_sｔ=１とコードし、それ以外は0とコードした。ただし、再婚経験者については、少数ではあるが再婚後に再婚相手の親と同居した者がある。この場合はdoky\_sｔ=2とコードした（分析目的によっては、離婚以降、非該当として再コードする必要がある）。

ｂ）開始年and/or終了年が不明の同居については、無回答9をコード。ただし、同居回数が２回以上のケースで、開始年・終了年が判明している回があれば、その該当期間については1ないし2をコードする。

ｃ）調査時点による観察打ち切りはその時点以降、7（非該当）をコード。未婚者は8をコード。上記以外が0。

コード一覧　　　0 別居（死亡を含む）

　　　　　　　　　　1 同居（初婚）

2 同居（再婚）

　　　　　　　　　　7 非該当（調査時点打ち切り）

　　　　　　　　　　8 非該当（未婚）

　　　　　　　　　　9 無回答

hsholdc1　長子１歳時の世帯構成（６分類）：国勢調査の「世帯の家族類型」に準拠。

hsholdc2　長子１歳時の世帯構成（４分類）：同上

hsholdn1　現在の世帯構成（６分類）：同上

hsholdn2　現在の世帯構成（４分類）：同上

＜就業歴＞

jobag10～jobag77　10 歳から77歳までの就業状況および従業上の地位：

ａ）1職（Q39-2およびQ39-3）の地位コードを2職以降のそれにあわせた。

ｂ）同年の内に転職が行われたケースについては、コードの組み合わせ（前職と次職、順不同）を出力した。ただし、同コードの仕事間の転職の場合、たとえば正社員＋正社員は、11とせず、単に１として扱った。

ｃ）時点情報不備のケース――各職の開始もしくは終了の年齢が無回答のケース、各職の開始年齢が終了年齢よりも遅いケース――は、欠損値として一括処理。

ｄ）年齢（調査時点）による観察打ち切りはその年齢以降、非該当88をコード、時点情報不備のケースには、無効99をコード。

コード一覧　　0 仕事についていない

1 正社員（正職員、役員を含む）

2 自営（家族従業員を含む）

3 パート（アルバイト、派遣、内職を含む）

12 正社員＋自営

13 正社員＋パート

23 自営＋パート

77 就業（仕事内容不明）

88 非該当（年齢による観察打ち切り）

99 無効（時点情報不備）

＜介護・看護歴＞

careag12～careag81　10 歳から77歳までの介護・看護状況：

　　　　　　ａ）各回の介護について、「開始年齢≦ｔ≦終了年齢」を満たすｔについて、careagｔ＝１とコードした。

　　　　　　ｂ）介護経験の有無q44が無回答のために、それ以後の回答すべてが非該当となっている21ケースは、すべてのcareagｔを 9（無回答）とコード。

　　　　　ｃ）時点情報不備のケース――開始年、終了年のいずれか一方の記載があるが、他方の記載がないもの、介護開始年が、介護終了年よりも早い年に記載されているものなど――については除外するのではなく、下記のような仮定をおいて修正を行った。

・介護開始年が無回答で、介護終了年が記載されている場合、介護経験は介護終了年一年間とみなし、介護開始年＝介護終了年とした。

・介護開始年が記載されていて、介護終了年が無回答の場合、介護経験は介護開始年一年間とみなし、介護終了年＝介護開始年とした。

・介護開始年が、介護終了年よりも早い年に記載されている場合、開始年と終了年の記載ミスとみなし、介護開始年と終了年を入れかえた。

　　　　　　ｄ）年齢（調査時点）による観察打ち切りはその年齢以降、非該当8をコード。

ｅ）さらに、下記のケース(７ケース、以下にSample ID No.を記載)について、次のような修正を行った。

q44にて「介護経験あり」、と答えているが、年次に関する記載がないケース（84109、114812）は、すべてのcareagｔを9（無回答）とコード。

１回目の介護について詳細な記載があるが、付問３または付問５について無回答のため、２回目以降の介護の有無が判断つきかねるケース（124603、144406、268113、318103、366108）は、１回目の介護終了年齢以降のcareagｔを9（無回答）とコード。

コード一覧　0 なし

　　　　　　　　1 あり

　　　　　　　　8 非該当（年齢による観察打ち切り）

　　　　　　　　9 無回答

以上